

理科(化学基礎・化学) 九州大学 理, 工, 農, 医, 歯, 薬, 芸術工学部

<全体分析>

試験時間 75分

解答形式

選択, 記述

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

各大問の配点が, 例年通りの各25点の5題に戻った。

その他トピックス

[1] (2)ラウールの法則は, 2024年[1]で出題されている。

[4] では, マルコフニコフ則により主生成物を決定する設問があった。

「炭素陽イオン」, 「電子の非局在化」, 「共鳴構造式」など聞きなれない用語に戸惑っただろう。

なお, 「炭素陽イオン」の語は, 2025年[5]で用いられている。

[5] (2)ビニロンの計算問題は, 2023年[5]で出題されている。

ズバリ! 的中 大問[1]の問1, 4(水の状態図), 問5(水蒸気圧), 問7(三重点前後の状態変化)と
九大オープン[1]の(1)

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	選択 記述	状態図, 気体 蒸気圧降下	化学	(1) 水の状態図 (2) 蒸気圧降下(ラウールの法則) (3) 断熱容器内の状態変化	やや易 やや難 やや難
[2]	記述	化学反応と熱 電離平衡	化学	(1) 反応エンタルピー, 触媒のはたらき (2) 弱酸の電離, 緩衝液, 塩の加水分解	標準 標準
[3]	選択 記述	無機物質 結晶	化学基礎 化学	(1) 2族元素 (2) イオン結晶(NaCl型, CsCl型)の密度 (3) 17族元素, 酸化還元反応	やや易 標準 標準
[4]	選択 記述	有機化合物	化学	(1) マルコフニコフ則(炭素陽イオンの安定性) (2) ベンゼンの共鳴安定化エネルギー (3) イソプレンとその誘導体	標準 標準 やや難
[5]	記述	アミノ酸 合成高分子化合物	化学	(1) アミノ酸, ペプチド, タンパク質 (2) イオン交換樹脂, ビニロン	やや易 標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

高校の教科書を丁寧に学習することが最も重要であるが, 近年は教科書の発展項目からも出題されているため注意を要する。標準問題の演習で基礎知識を確認し, さらに応用問題や発展問題も演習しておくことが必要である。また, 長い問題文の内容を素早かつ確に把握する練習と煩雑な計算問題を解くスピードを上げる練習もしておきたい。学習の仕上げとして, 十分な過去問の演習をしておきたい。